

森の中で、ウサギとキツネとサルが仲良く暮らしていました。ある時、三匹は空腹で倒れた老人を見つけたのです。早速、キツネは川に入って魚を捕ってきました。サルは、木に登って木の実や果実を探してきました。ところが、ウサギだけはどうしても食べ物を見つけないで帰ってきました。ウサギは、老人に頼んで火をおこしてもらいました。やがて火が燃え上がると、ウサギは言いました。「私は何も差し上げるものはありません。どうか、私を食べてください」そして、火の中へと飛び込んだのです。それを見た老人はたちまち帝釈天の姿に変わると、ウサギを月へと昇らせて、その姿を月に残したのでした。月に見えるウサギの周りには、自らの身を焼いた煙だと言われています。

これは、お釈迦様の前世での物語が説かれた『ジャータカ』というお経にある「月の中のウサギ」という話です。

身を捨てたウサギと、いつも我が身が一番の私……。秋の夜長、テレビやパソコンの前を離れて、ゆっくりと月を眺めてみませんか。

